

Sunflowers

Vincent van Gogh

1888

The National Gallery, London

(92.1 x 73cm)



ゴッホの「ひまわり」の絵は、花にも壺にも影がないことにお気づきでしょうか。これは彼が大好きだった日本の浮世絵の影響と言われています。浮世絵を通じて日本に憧れたゴッホは、その空間表現や色彩、自然観に感動し彼の思う「日本」に似た芸術家の楽園を南仏のアルルに作るうと夢を見ました。その南仏で描かれたのが、この「ひまわり」です。

画家の友人と一緒に暮らすために、アルルへ来ると知らせを受けてゴッホはその部屋に飾ろうと、五日間で四枚のひまわりの絵を一気に描きました。上の絵はそのうちのひとつで、明るい未来と楽しい毎日に思いを馳せ、友人を歓迎するゴッホの喜びが溢れています。

しかし、友人との生活は長くは続かず、孤独に耐えかねたゴッホは精神を病み三十七歳という若さで命を絶ってしまいます。二十七歳から絵を描き始め、たった十年間の画家人生で、ゴッホは命を燃やすように沢山の作品を作りました。

彼の絵に描かれているひまわりは、花の美しい瞬間ではありません。

それは盛りを過ぎて枯れ始めていますが、そこに「衰え」や「弱さ」は見られずむしろ力強い生命力と、歌うような躍動感がこの絵からは感じられます。

ゴッホは、つかの間の美しさよりも、人生の重みや生き様を大切に作る画家でした。散り始めたひまわりの花は、ゴッホにとって美しい生命の輝きとなり枯れたからこそ、こんなにも強く、生き生きとしていたのですね。

(「ひまわり」 フィンセント・ファン・ゴッホ ロンドン・ナショナル・ギャラリー)

花物語

比田井宗玉

